

福岡県ベンチャービジネス支援協議会

ベトナムビジネス・最前線ニュース

2024年2月15日

ASIA GATE VIETNAM CO., LTD.

豊田英司

ベトナムで人事労務のアドバイス、進出時の行政手続き代行、そして現地でのビジネスのサポートをしております、アジアゲートベトナムの豊田と申します。

今回もベトナムにおけるビジネス情報を寄稿させていただければと思います。

=====

【景気動向】

ベトナム統計総局（GSO）が発表した2023年通年のベトナムの実質国内総生産（GDP）成長率は5.05%でした。

なかなかの好成績のように見えますが、23年の年初に政府が設定した目標は6.5%でしたので、これは未達に終わりました。

これによってベトナムの現在の名目GDPは4,300億米ドルに達すると予想され、これは一人当たりGDPに直すと前年比160米ドル増の4,284米ドルとなります。

日本の一人当たりGDPはIMF（国際通貨基金）が発表しているWorld Economic Outlook(*)の最新情報によると34,550米ドルですので、日本とベトナムを比較すると「8対1」ということとなります。

(*)<https://www.imf.org/external/datamapper/NGDPDPC@WEO/OEMDC/ADVEC/WEOWORLD/JPN>

一方で、ベトナムの消費者物価指数（CPI）でいうと2023年通年のCPIは前年比3.25%上昇で、政府が年初に設定した目標の4.5%未満を大きく下回り、インフレは抑制されています。

(参考) ベトナム統計総局ウェブサイト（英語）

<https://www.gso.gov.vn/en/homepage/>

【2024年のベトナム経済見通し～昨年の不景気をいかに乗り越えるか～】

昨年 2023 年のベトナム経済を一言で言えば、「ここ 10 数年で一番の不景気」だったと言えます。23 年年末には自動車やバイク、スマホなどの家電機器など、今まで右肩上がりだった業界での年間販売台数の大幅な減少が大きな話題となりました。

原因として関係者が口を揃えるのは「輸出の激減」と「不動産市場の悪化」です。

「輸出の激減」については、欧米や中国向けの輸出激減が主な原因ですが、弊社のクライアントには日系縫製業が多く、皆様とお話すると、輸出激減の象徴であった縫製や靴、鞆などの輸出は昨年後半からアメリカ向けが戻りつつあり、「少し光が見えてきた」という意見で一致しております。

一方で「不動産市場の悪化」については、まだ少し光が見えない状態かと思えます。現在、中国では不動産不況が大きな問題となっていますが、ベトナムもここ 20 年、経済を牽引してきた不動産事業が 2023 年、大手不動産開発会社の株価操作などの不正発覚を契機に、上述の輸出不振による国内不景気も相まって、不動産の販売数に急ブレーキがかかってしまいました。

不動産業界については今年の中頃からは回復基調になるという予想と、今年中の回復は厳しいのでは？という声が半々という印象です。

ただ、投資用の高額物件ではなく、実際に居住用として購入される中価格帯の不動産については、若い世帯が多いベトナムですので堅調な実需がある程度市場を下支えするであろうという意見は多く見られ、これは私も同意します。

ここまで、2024 年のベトナム経済の「厳しい側面」のお話が多かったですが、当然、ポジティブな動きもあります。

まず、中国系メーカーのベトナムへの進出が非常に増えています。これはアメリカとの貿易摩擦回避や中国自体の人件費増加などが理由と思われます。中国に近いベトナム北部の工業地帯での工場建設、製造機械の輸入、雇用創出などの投資がかなり盛り上がってきています。

日系企業の視点で言えば、国内不景気が不動産価格や人件費の「上げ止まり」をもたらし、日本企業による不動産購入や日本で就労する技能実習生や高度技能者、介護人材の仲介を行う事業の活況、さらにベトナムの IT 会社への出資による M&A などの弊社へのお問い合わせなども明らかに増加しています。

以上のように、2024 年のベトナム経済の展望としては、「苦境とチャンス」が同居する状態かと思えます。

昨年の困難を乗り越え、2024 年に新たな経済発展へと進むことを期待しています。

今回は以上となります。

豊田英司

<https://www.asiagate-vietnam.com/>